

550.378 : 551.763 (521.75)

### 兵庫県多紀郡篠山地区の放射能強度調査

宮村 学\*

昭和40年7月～8月に兵庫県多紀郡篠山町を中心にウラン調査を行なった。同地区には、湖成起源と考えられる白堊紀の篠山層群が分布し、下部には暗赤色頁岩と基底礫岩とが発達するので、ウラン調査研究の対象として取り上げた。

放射能測定器として日本無線 TCS-121 型シンチレーション・カウンターを使用した。その結果とくに強い放射能異常値はみいだされなかった。篠山層群下部に発達する暗赤色頁岩層の異常値は 0.03 mr/h で同層群中最高 of 異常値を示すが、自然計数 (0.014 ~ 0.017 mr/h) の約 1.7 倍を示すにすぎない。

\* 大阪駐在員事務所

550.378 : 553.94 : 551.78 (522.1)

### 福岡県八女郡下およびその周辺地区新第三紀層ならびに朝倉炭田古第三紀層の放射能強度について

古川 俊太郎\*

核原料物質研究調査の一環として黒木・湯納楚両亜炭田地区および平野嶽・朝倉両含炭地区を中心に基盤岩を含む堆積岩に伴う放射能強度調査を実施した。使用した測定器は携帯用 Aloka IRC. TCS-121 型で地層の露頭における放射能強度を測定した。その結果古・新第三紀

層は基盤岩の結晶片岩・花崗岩類および阿蘇熔岩よりも一般に放射能強度は低く、洪積層よりも多少高く異常地は認められなかった。古・新第三紀堆積岩層においては亜炭層・頁岩層中に (平均1.9~1.4倍) やや高い数値を示す程度で他はいずれも自然数値と大差はなかった。

\* 福岡駐在員事務所

550.378 (521.76)

### 奈良市東部と天理市福住地区における放射能強度調査

稲井 信雄\* 宮村 学\*

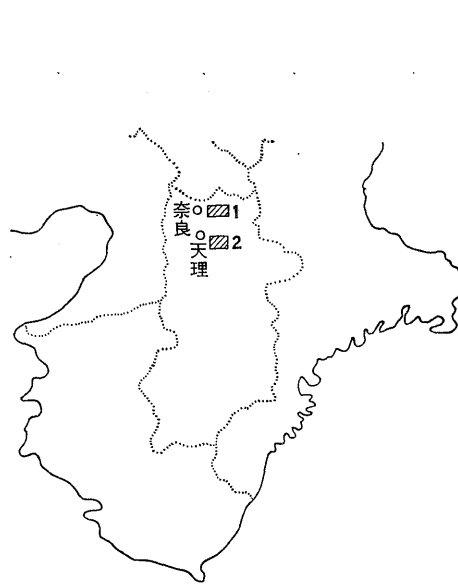
#### 概要

奈良市東部および天理市福住地区には、領家型花崗岩類を基盤とする新期堆積盆が発達し、非海成の鮮新統海成の中新統および非海成の洪積統がある。当地域の地質

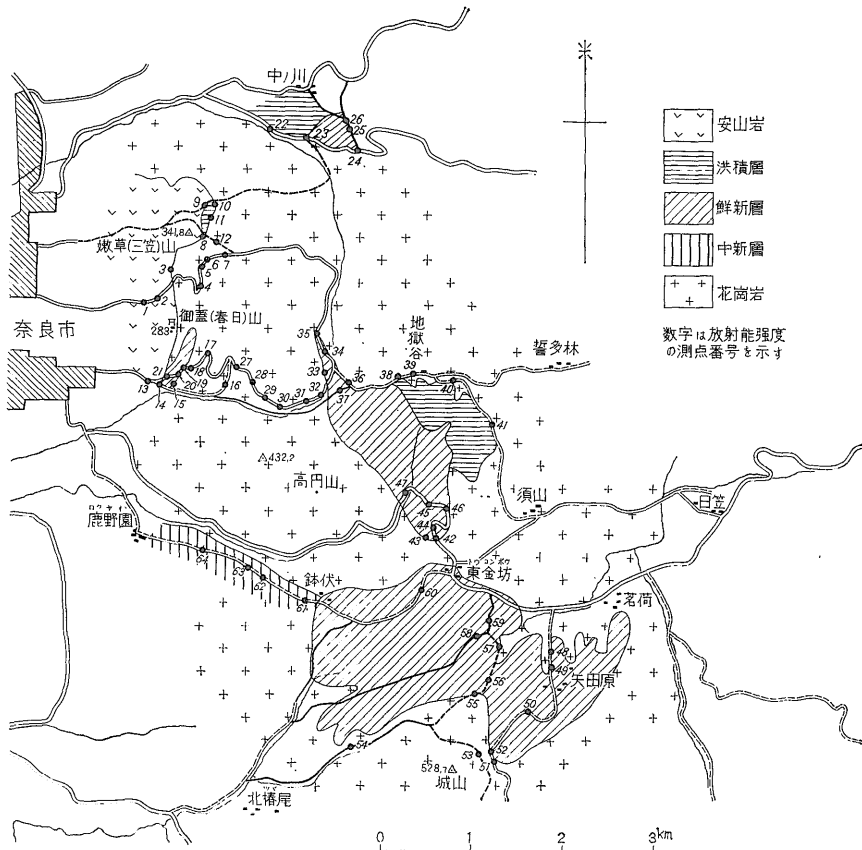
は、最近ウラン鉱の発見で問題になっている岐阜県土岐津付近のそれに類似している点があるので、放射能強度について予察調査を行なった。

本調査は、昭和39年10月および昭和41年2月の2回に

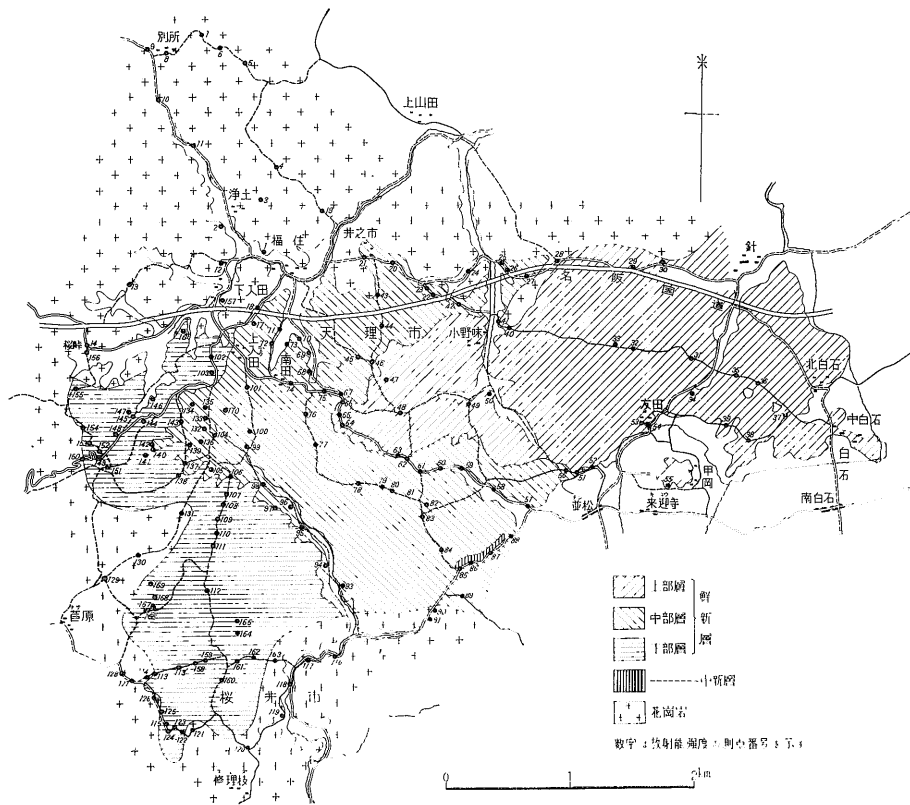
\* 大阪駐在員事務所



第1図 位置図  
 1. 奈良市東部地区  
 2. 天理市福住地区



第2図 奈良市東部地区の地質図と放射能強度測定位置図



第 3 図 天理市福住地区の地質図と放射能強度測定位置図

わたり実施し、調査に際しては TCS-121 型シンチレーション・カウンターを使用した。

放射能強度は、当初の予想よりも低く、最高異常値は奈良市東部地区の砂礫層 0.025mr/h で自然計数 (0.015

-0.019 mr/h) の約 1.3 倍、他方福住地区の cobble 層 0.019 mr/h で自然計数 (0.010-0.011 mr/h) の約 1.7 倍を示すにすぎなかつた。